



聖母の騎士学園
同窓会報
☎850-0012
長崎市本河内2-2-2
TEL 095-823-4523
FAX 095-823-4759
- 第19号 -

会長就任のご挨拶 艱難辛苦に耐えて

同窓会会長
赤本喜代次



この度、どういう訳か同窓会会長に就任する事になりました。長崎市内に住んでいるのだから、すべし、という事だと思えます。「神様は負えない荷物は負わせない。」のですから、力量不足とは思いますが、二年間全力で努めようと思えます。皆様のご協力、宜しくお願い致します。

私は五島市の出身で堂崎教会の所属でした。あれから五十年。私も六十七歳になりましたが、どういう訳か、大した苦労もなく、これまで過ごして参りました。聖母の騎士に入学して以来、神様とマリア様の庇護があったのではないかと、最近特に感じています。会長就任後の出来事を少し報告したいと思えます。聖コルベ神父様と生活した五島久賀島出身の中村修道士様が亡くなられました。修道士の道を全う

し、天国に行かれコルベ神父様とお会いしている事と思えます。また、湯江の老人ホームで何冊もの本を書いておられる尊敬するトマさんこと、小崎登明さんと、舎監・経理を担当しているヨゼフさんにお会いしました。お二人とも元気で暮らしておられます。また、末吉矢作神父様（日本で最初の管区長）は、多くの要職を務めて来られました。ご冥福をお祈り致します。松下ブラザーの修道生活五十周年のお祝いをささやかですが、姉弟仲間と致しました。昔と変わらぬ柔軟なままです。きっと素晴らしい修道生活を過ごしている事と思えます。

崎濱宏美神父様は管区長・校長として重責を担っておられます。身近で見ていると、聖職者として、経営等にも従事され、俗世間で暮らす我々より

はるかに苦労をされている事がひしひし伝わってきます。病気をしない様ご奮闘を祈るばかりです。きっと、マリア様と聖霊のお導きが有る事だろうと思えます。

長崎では信徒発見百五十周年の記念行事が大浦天主堂で行われ、全国から信徒の代表が集まりお祝いのミサが行われました。今、長崎の教会群を世界遺産登録しようとしています。色々と考え方がありますが、過度の商業主義に巻き込まれない様に、福音が伝えられる様にと祈りたいと思えます。

艱難辛苦に耐えて、信仰を守った先祖に恥じない様に、私達もこれを次世代に伝えていかなければならないと思

います。最近、御ミサの説教で、神学生・修道者募集の話がありました。その中で「招かれた人は多いが、選ばれた人は少ない。司祭等になれる人は少ないが、なれなかった人は、社会や教会で奉仕をして下さい。」と言われ

ました。この話を聞き、私にはまだ、世の中の為にやれることが沢山あると感じ、これまでの胸のつかえが取れたような気がしました。

最後に、今年度の総会に奄美支部より十数名が参加します。懐かしい顔を見に来ませんか。また総会後は五島巡礼に行かれるそうです。偉いですね。深い信仰に感心します。OBの皆様、ルルドのマリア様もお待ちです。是非、会いに来てください。

イソヒヨドリ

聖母の騎士高等学校校長
同窓会顧問 崎濱宏美



ピヒャーチヨホヤホ。これは時々学校で私が聞いている一羽のイソヒヨドリ（通称イソヒヨ）の鳴き声である。しかし、正直言って何と表現したらいいのかわからない鳴き声である。隣の聖母の騎士修道院の屋上を

この鳥は、名前に磯がついているように、本来は海岸の岩場を住み家として、海から離れた岩

ねぐらにしているようであるが、コウに、本来は海岸の岩場を住み家として、海から離れた岩

山に住んで、いる事もあるようで、本河内教会や校舎も含めた一連の建物を、岩山と勘違いしているのかも知れないと思っっている。ある時、校長室の外に見えるコンクリートの壁面の上を歩いて餌をさがしていた姿を見たことがあるので、そう思っっている次第である。

今回なぜこんなことを書き始めたかというところ、わずか1年に一度の発行である「英彦の泉」をとっても楽しみに待っただけで、同窓生たちがいることを知ったことである。そして、

今は遠くになってしまった終戦前後から現在に至るまで、この場所を過ごしていた同窓生たちのそれぞれの青春は、この場所にあつたし、例えようもない郷愁の中でここで営まれた生活を思い出すとわかり、この場所での日常の一部を切り取って紹介したいと考えたからである。

私が入学した昭和28年でも、終戦後8年を経過していたが、ご飯などには腐りかけたサツマイモ等も混入されていて非常に粗末なものだったし、福江島の貧しかった我が家の方がまだまし

学園だより

高給体と高文連報告

2015
平成27年



平成27年度、長崎県高等学校総合体育大会の開会式が6月5日(金)に佐世保市総合グラウンド陸上競技場で行われました。本校からは副校長先生を団長として24名の生徒が参加し、剣道部主将の湊君が旗手を務め堂々と行進しました。競技には、バドミントン部と剣道部、それから個人競



だったと思つたものである。その頃は、学んでいた神学生は学費も生活費も無料で、帰省するときの旅費と僅かな小遣いだけが自費だっただけである。100名あまりの飢えた少年たちに、日に3度の食事を与えるだけでも大変なことであつたらうと思えるようになったのはかなり長じてからであつた。私が高校1年になつた時、だいたいの家庭の経済状況を推し量つて、いくらかの協力を求めていたことを記憶している。

考えてみれば当然とはいへ、当時の神学生たちの生活も清貧そのもので、あつたと思う。2階のたった3か所の寝室で100名あまりが寝台を並べて休んでいた。寝室に置けるものはタオルと寝巻だけで、下着置き場や予備の制服置き場は、寝室からかなり離れた旧校舎の一角にあつたし、洗面所もかなり離れた所にあつた。私が貰つた衣類番号は37番で今でも忘れていない。

イソヒヨは、どこでパートナーを見つけるのか、毎年子育てもしている。タマゴをいくつ生むのかわからないが、ヒナは何時も一羽だけを連れていく。大抵の鳥たちは、雛が飛べるようになってから巣立ちを迎えるのに、イソヒヨはほとんど飛べないのに巣立ちさせている。多分最初のころは1メートルか2メートルぐらいしか飛べない。そのためか、親鳥はピシッピシッと普



段出さないような声を出して上の方からしっかりと見守つている。雛の近くに人やネコ等が近づくとガッ!ガッ!ガッ!と大きな声をだして警告している。子どもを守る親鳥のすごさが感じられる光景である。

この鳥の鳴き声は、非常にユニークで多彩である。天気の良い日に気持ちよさそうに鳴いている声は、一羽なのに2・3人の母親たちが井戸端会議でもしているかのように聞こえる。「ピハーチャオヤオ・ホキヤーコチャコチャ!」

小鳥に話をされた聖フランシスコのように「神さまに感謝しなさい!」と呼びかけたくなる気分になることもある。ただ、聖人を師父と仰ぐフランシスコ会の修道院を安住の場所としているのなら、実に嬉しいことである。イソヒヨがどんなことを訴えているのか、今後もしつかり耳を傾けていきたい。

技として陸上、水泳に出場しました。
 なお、長崎県高等学校文化連盟に
 しましては、囲碁部とバグパイプ部が
 参加していますので、併せて各顧問か
 ら報告していただきます。

【剣道部】

剣道部顧問 廣島誠一郎

はじめに、同窓会よりクラブ援助費
 をいただき、ありがとうございました。
 剣道競技は、個人戦に3年生の湊
 一起君と2年生の江頭航洋君が参戦し
 ました。結果は次の通りです。

●3年生—湊一起君

1 回戦、吉岐高校3年の池内選手に
 面の2本負け

《本人の感想》

十分に気合いを入れて声をしっかり
 出して試合ができました。面の打ち方
 も緩急使い分けていたと思います。試
 合中は、相手が面にくるタイミングが



つかめてきたので、出がしら面を打ち
 に行ったが逆に打たれてしまい、打ち
 方に問題があると思いました。

つまり、小さく打ちに行ったときに
 力が入りすぎていたように思いまし
 た。江頭君が練習で打っているような
 面が打ちたかったのですが、勝ちを意
 識しすぎて足の動きもよくありません
 でした。あとになって思えば勝てた試
 合なのに、負けたことが悔やまれま
 す。練習不足もあると思いますが、一
 番は緊張していたことです。自分でも
 あんなに動けないものかと驚いていま
 す。今後は、あがらず、足と打ちに集
 中して一本をとれるようにしたいです。

●2年生—江頭航洋君

1 回戦は川棚高校3年の永盛選手に
 面の2本勝ち

2 回戦は大村工業3年の西選手に面
 の1本負け

《本人の感想》

この試合、自分がこれまで練習して
 きたことや、先生から教わったことを
 意識して臨みました。

1 回戦は、体の動きがあまりよくな
 く、なかなか自分が思うような剣道が
 できませんでした。試合中に竹刀を2
 回落としてしまいました。1回目は完
 璧に落ちていましたが、2回目は剣先
 が床につき、手元から一瞬浮いたよう

になってしまい、反則になって相手に
 1本を与えてしまいました。竹刀の握
 りが甘かったことが反省点です。しか
 し、1本目の面は間合いに入って飛び
 込んで打ちました。2本目は、自分の
 攻めに相手が引いたところを思いつき
 り飛び込んで面をとることができま
 した。

2 回戦は、1回戦よりも体が動き、
 集中していたと思います。ですが、勝
 とうという気持ちが裏目に出て焦って
 しまいました。結果は、出がしら面を
 1本とられて負けました。自分の攻め
 が中途半端だったので、相手に乗られ
 たのだと思います。しかし、今回の試
 合は、前に攻めて勝負ができたのでよ
 かったと思います。



【バドミントン部】

バドミントン部顧問 飯田友広

団体戦は佐世保西高校に0-3で1

回戦敗退しました。個人戦は、ダブル
 ス3組、シングルス3名すべて0-2
 で1回戦敗退でした。昨年よりは相手
 に恵まれましたが、勝てるレベルに
 至っていませんでした。
 今後は、今回出場した1年生3名が
 成長するようにがんばります。

【個人競技】

●陸上

1 年生の梅本皆人君は100mに出
 場し、予選12組8人中7位で残念なが
 ら予選通過はできませんでした。

●水泳

1 年生の戸樫耀嗣君が200m自由
 形、100mバタフライに出場しまし
 た。自由形は35人中28位、バタフライ
 は27人中26位でどちらも予選通過はな
 りませんでした。

2 人とも学校終了後に校外におい
 て、個々に練習に取り組んでいます。
 まだ1年生ですから、今後の活躍に期
 待しましょう。

【囲碁部】

囲碁部顧問 吉田博愛

本校3年の小岱証君は、平成27年5
 月6日青雲高等学校にて開催された
 「第39回全国高等学校総合文化祭囲碁
 選手権長崎県代表選考大会」に出場し

ましたが、善戦むなく、今年度は新入生二人の強豪に押さえ込まれ、惜しくも全国大会出場を逃しました。

しかしながら昨年、一昨年と2年連続で全国大会に出場できましたことは、ひとえに同窓会の皆様のご支援の賜だと、あらためて感謝申し上げます。今年度をもって彼も一応囲碁部を「卒業」するわけですが、いい思い出を胸に、これからは大学進学に全霊を傾け頑張っていくものと思います。ご期待下さい。

「バグパイプ部」

バグパイプ部顧問 熊川 武俊

5月24日(日)、諫早文化会館で長崎県高等学校連合音楽会、器楽・管弦



楽部門に本校バグパイプが出演しました。ドラム奏者は急ごしらえのため、かなりの不安を抱えての演奏でしたが、予想以上の出来で、大きな役割を果たしてくれました。フィナーレでは、栄光の架け橋をマンドリンやその他の楽器と一緒に演奏。そして、締めは、部長の高橋君の代表挨拶でした。演奏も代表挨拶も、緊張するのは当たり前ですが、生徒達にとっては素晴らしい経験となりました。

観客の皆様から頂いた感想には、「バグパイプを初めて聴いて、その迫力と音色に感動した。また聴きたい。」「衣装もかっこよく、堂々と演奏していた。全国総文祭では、他の人たちをびっくりさせて。」「スコットランドにいるみたいでした。アメリカング・グレイスは心にしみました。もっとバグパイプを広めて欲しい。」「など、たくさんの好意的な感想を頂きました。

7月28、29日に滋賀県で実施される「2015滋賀びわこ総文祭」の器楽・管弦楽部門への長崎県代表としての出演します。全国の高校生が集まる演奏会で、バグパイプの素晴らしい音色を届けることが出来るように、しっかりと練習を重ねていきたいと思っています。

木場田元会長の講演を、行いました。



平成26年9月5日(金)の総合学習の時間に、本同窓会の木場田会長が「日本の近代化に果たした役割」という演題で母校の講堂で講演をしました。会長は若い頃(20代) 叔父の仕事を手伝うため、端島(軍艦島)で働いた経験があり、今は軍艦島の観光ガイドをしているとのことでした。現在、軍艦島は「明治日本の産業革命遺産」の世界文化遺産として推薦されています。

軍艦島と呼ばれる名前の由来や石炭採掘の過酷な労働、島での住民の生活の様子などを、おもしろおかしく、またエネルギーシユに生徒達に語り、あつという間に50分間が過ぎてしまいました。会長はまだまだ話足りない様子でしたが、貴重な話をたくさん聞くことが出来たと思っております。

この講演の2週間後、9月19日(金)に全校生徒と職員及び参加希望した保護者などで、軍艦島の見学に行ってきました。当日はあいにくの雨でし



たが、本校以外にも多くの見学者が島に上陸していました。本校の案内には、もちろん木場田会長が付き添い雨の中にもかかわらず丁寧にそして分かりやすく説明していただきました。本当にありがとうございました。そしてお疲れ様でした。



各地区からの お便り



岐阜便り

大病を乗り越えて 同級生との出会い

岐阜県在住 榎原 聖

同窓会の皆様、私は28年前に本校を卒業いたしました榎原聖（さとし）と申します。熊川先生には、当時大変お世話になりました。現在は製造業の役

員をしており、高3の娘と小6の息子がおります。

実は、5年前に大病をして生死の境をさまよい、いきて帰ってきまじましたが、左半身が不自由になってしまいました。最初は現実を受け入れることが出来ず、絶望しましたが、そんな時こそ当時一緒に学んだ同級生のみんなが暖かく声を掛けてくれて、生きる勇気をたくさん貰いました。

今は週1回のリハビリに通いながら元気に過ごしており、右半身で大体のことは出来ます。一つひとつ出来ることが増えてくると、それが自信になり、毎日が楽しくなります。神様はちゃんと見てくださると僕は信じています。

関東支部便り

弔辞

関東支部 岡 信夫

松田さん、僕達が初めて会ったのは中学2年生の時。それから60余年間同じ境遇で生き抜いてきた同士でした。

しかし、今日こうして別離の時を迎え、残酷なことに、あなたの霊前に向かい弔辞を読むことに成ってしまい誠に痛恨の極みです。

ここで、胸にこみ上げる悲しみと共に懐かしく思い出させられるのは、中

学、高校、そして大神学校と同じ屋根の下で、同じ釜の飯を喰って勉学に勤しんだ時代もさることながら、学園の同窓会に関する事です。



関東地区に居住する同期生が、当時の主任司祭を頼りに二人、三人と赤羽教会に集まるようになり、それがいつの間にか同窓会へと発展したわけですが、その大役の大部分を担ったのが松田さんあなたでした。東京地区規約の原案を作成したのも、あなたでした。

また大勢の家族ぐるみでの五島列島・奄美大島巡礼旅行の幹事を務めたのもあなたでした。お陰で参加者全員が楽しい旅行に成り、今でも茶の間の話題の一つに成っている事と思います。

あなたは僕達がどんなに面倒な事を頼んでも、決した頭を横に振る事はありませんでした。全てを快く引き受けてくれました。このように、生前からのあなたの献身ぶりと、変わらぬ暖かい友情に対し、同窓生一同を代表す師、厚くお礼申しあげます。

松田さん、只今、神様の光の中で安らかに息われている事と確信しておりますが、どうか安らかに永眠される事を祈りつつ、謹んで哀悼の誠を捧げます。平成27年6月16日

関東支部便り

松田不二夫さん 永遠の安息を……

亀有修道院 藤澤幾義

OB会の皆様、お元気ででしょうか。ここで松田不二夫氏の葬儀告別の報

告をさせていただきます。他のOBの方が報告されていて、重複するかも知れませんが……。

浦和教会の主任司祭吉川神父様のご厚意によりまして、そう長くないとの医者判断が下された時、だれかOBに関係している神父に依頼しておいた方がいいと思うので、お願いしておいでください、と神父様に言われ、奥様を通じて岡信夫さんのほうに連絡があり、管区長か藤澤かになったようです。管区長が多忙だったために、私がさせて頂くことになりました。お通夜は主任神父様が主式して下さい、葬儀ミサ告別式は藤澤がさせて頂きました。共同司式は主任司祭のほか司祭3名、助祭2名でした。主任司祭は、ご多忙にもかかわらず、身内の方と一緒に最後まで看取って下さったと奥様は感謝しておられました。

松田さんは、教区の財務、会計の仕事など教区並びに浦和教会でまた地区の民生委員などで長年尽くされてきましたので、たくさんの方が通夜に参列して下さいました。三百人は超えていたのではないかと思いましたが。葬儀ミサ告別にも百五十名を超すほどの参列者だったと思えました。これ程たくさんの方を集めた彼の仁徳には驚きました。ある先輩（故人）が、私がなくなるとき私のために泣いてくれる人（祈ってくれる人？）が何人いるだ

ろうかと言ったのを聞いたことがありませんが、松田さんはたくさんの方に祈ってもらった通夜・葬儀ミサだったと思います。それは彼が教会のため、人のために尽くした生涯の結果そのものだったのです。OBの中には信徒会長や他の役員など長年歴任されている方も多いようですが、教会のため、人のために尽くすことは、決して無駄にならないことを教えている彼の姿だったと言えるのではないのでしょうか。通

「関東支部便り」 至福千年

昭和35年入学 池田健二

時間は常に過去から未来に向かって流れ続ける誠に退屈なものだが、人間の本性はこの様な無味乾燥な経過を嫌い変化を好むらしい。この為わざわざ一週間、一年、一世紀という様な区切りを設け人生にアクセントを付けようとする。人は常に心機一転のチャンスを見ているらしい。

今は21世紀の始年であるばかりでなく、その上、2000年代の始年でもある。キリスト誕生以後、今年は2015年であるから、その予言通りであったとしたら、この世は当時よりも一層人類はお互い愛し合い、平和に暮らしているはずなのに、どうしたとかか現実は必ずしもそうではない。特

夜の時に響いた聖パウロのことは「わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠をうけるばかりです。」(二テモテ4、7、8)は松田氏に合う言葉と実感した程でした。OB会の皆さんどうぞ、彼の永遠の安らぎをお祈りください。

「主よ永遠の安息を彼に与え、たえざる光を彼の上に照らし給え。彼の安らかに憩わんことを」

に神の被造物の長である様に位置づけられた「人間」こそは、益々父なる神への敬愛心を増しといて当然のはずだが、今の地球上で人類はむしろ憎悪心を高めつつある様にも思える。

さて、この1000年(センチユリー)と、1000年代(ミレニアム)だが、後者はキリスト教暦によると「至福千年」の二週目に相当するので、これから先希望の持てる、又、この世に福音をもたらすやり直しのスタートとも考えられるが、今日も懲りる事なく世界の何処かで人間同士の争いが目の前に点滅する。平和であるはずのこの21世紀も新しいテロリズムの出現で憎悪と報復の連鎖である。

何故、人を救うはずの宗教が争いあうのか？ 何故、自分の宗教だけが良くて他を認めようとしめないのか？ 問題解決に向け何故忍耐強く対話を重ね

ないのか？……。ブツダもキリストもムハンマドも今の世の中をどう思っているのだろうか？……。息苦しさは日常にも迫る。

これからどうなるのだろうか？ 果たしてこの二周年に、何らか天なる神からの啓示でも有り、我々人類が突如隣人愛に目覚め、ユートピアの再来に向かって努力するのだろうか？

戦後70年、何かと世相の転変を実感する事の多いこの頃。ハイテク、インターネット時代の情報社会の中で、他者への関心、気つきが希薄になっている今日、あらゆる分野で「道徳」と「教育」が問われている。

私はゴルフしか知らない人間なので、ここではスポーツの世界のモラルを見る事によって断片的ではあるがモラルについて考えたいと思う。

「スポーツと道徳」

今、どの国よりもプロスポーツが盛んな米国で、プロスポーツへの反省が芽生えている。プロの激烈な競争ゆえにスポーツ本来の姿が見失われてきた。それに対する反省であり、本来のスポーツを道徳へのルネサンス運動と呼ぶに相応しい思想である。

スポーツ教育の手段にしたのは古代ギリシャと英国だった。古代ギリシャ人は体力が劣っていた。そこでオリンピックを開いてスポーツを振興し頭脳

と体力の調和をはかった。哲学者プラトンは「単なる競争者は粗野な、単なる知性人は柔軟な人間になる」と、スポーツと学問、肉体と精神の統合を唱えた。健全な魂は健全な肉体に宿る。である。

英国はその古代ギリシャ思想に加え、人間の性格を造り上げる仕事をスポーツに負わせた。競争心、自制心、不屈不とう……。をスポーツによって高揚した。書籍の虫は軽べつされた。高揚した。書籍の虫は軽べつされた。学問だけではなく道徳にもスポーツにも勝れた者にはローズ・スカラシップという奨学金が与えられ、その中から大人物が輩出した。そういう古代ギリシャや英国の古き良きスポーツ精神への復帰が、米国スポーツの蘇生^①の主調だった。

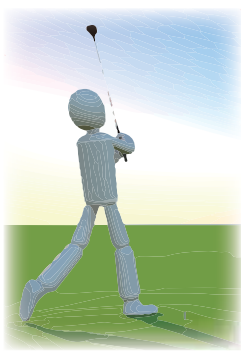
それならスポーツ精神復帰には何が一番大切か。答えはフェアプレー(公正)である。抽象的な言葉だが実は簡単な事だと提唱者は言う。相手投手のみごとなストライクに拍手をしよう。テニスの主審が自分に有利な判定をしたらすぐ指摘しよう。そういう簡単な事でスポーツは道徳的になり健全になる。ルールを超えたところにあるフェアプレーこそルネサンスの中核なのだという。

ある全米室内陸上、女子走り幅跳び。五輪メダリストのメリー・ランド(英)が予選通過出来なかった。とこ

るが、ウィリー・ホワイト(米)が計測の誤りを目撃し、ランドにもう一度チャンスを与えるべきだと抗議した。それがいれられ結局ランドが優勝した。日本流には、敵に塩を送るというフェアプレーである。

ゴルフならそういう超ルールのフェアプレー精神をとくに理解していると思う。ゴルフルールの中で一番大切なのは、11条「公正の原則」である。簡単にいえば、他人に不利、自分に有利な裁定を避ける、である。ゴルフルールが英国で育ったのはゆえなしとしない。

フェアプレーはルールの中ではなく人間の心の中に住む。1926年全米オープン。ボビー・ジョーンズ(米)は、パットのアドレス中に球が動いたと思った。同伴競技者も周囲の人々も動かなかつたと言ったが「大切なのは私がどう判断したかだ。動きました。」この1打付加でプレーオフになったが優勝した。人々はこのフェアプレーを絶賛したが「泥棒じゃないと言って誉められるのはおかしい。」と彼は言った。はたから見ではつきり動いたのであ



れば誰でも自ら罰を科す。はつきりしない場合は第三者に判断を求める。だが第三者が「動いてない」と言うのに自ら罰を科すのは、言うは易くして行い難いである。まして全米オープンの優勝のかかっている場合は一。しかしジョーンズは、「当然のことだよ」。

当然の事を美德と称賛する世間が狂っているのか、美德を当然の事としてあっさりやってしまうジョーンズが狂っているのか、現実には残念ながら美德が消えていき、希少価値となりつつある。ジョーンズはユートピアの住人なのだ。だから現代が失いつつあるものをジョーンズの中に探し求めるのも無駄ではあるまい。

乗車してきた老人に小・中学の子供が何気なくすつと立ち席を譲る。常識であり当然の事だ。しかし、ふと、そういう男の子に娘を嫁にやりたいと思う。そういう美德を淡々として出来る人格は、やはりいつの世でも香しい存在である。ジョーンズは怒るかも知れないが、美德はやはり称賛されるべきだと思ふ。

1930年、年間グラランドスラムメジャー四冠を果たし引退。引退後、名コース、オーガスタ・ナショナルを設計、マスターズトーナメントをつくりあげた。当初大会名を「年間招待トーナメント」と地味に名付けた。ところがジョーンズの意に反して、紙上にマ

スターズの大見出しが躍った。ジョーンズはその大げさな名前をひどく嫌がり五年間も拒否し続けた。生涯、謙虚を押し通して悔いることないジョーンズの姿だった。

「エチケツト&マナー」

エチケツトとは、簡単に言えば「思いやり」である。電車で空席には深く腰掛けて足を投げ出さない様にしよう。前を歩く人の邪魔にならない様に、人前でツバを吐けばイヤな思いをさせるから、ティッシュペーパーを持ち歩こう、などなど思いやるのがエチケツトだ。エチケツトは子供の時から躱けられて自然に身に付けていくものであり本来は不文律である。

ゴルフ規則は第一章でエチケツトをうたっている。これは、如何にエチケツトの達人でも、シャバのエチケツト感覚では通用しないゴルフ場独特のエチケツトがあるからだ。例えば、ヘタな同伴競技者をいたわるのはシャバのエチケツトだが、その人の面倒に気が取られてラウンドの流れが停滞すれば、コースの全員に対する思いやりを欠く事になる。グリーンを傷つけばグリーンがかわいそうだ。このグリーンを丹精したグリーンキーパーは心を痛めるだろう。このまま行けば、後続組の者はパットがやりにくからう。などなど思いやるのがゴルフ場独特の

エチケツトだ。

もともとエチケツトを心得ている人は、ゴルフのエチケツトもすんなり身に付ける。もともと粗野な人間は、ゴルフを始めてもなかなか身に付かない。しかしある日ふと、エチケツト開眼をするかも知れない。そしてゴルフのエチケツトを通してシャバのエチケツトにも思いを至す事になるかも知れない。どこのゴルフ倶楽部でもその会則に「ゴルフを通して立派な人間になろう」という意味の事が書いてあるが、そのチャンスは十分にあるわけだ。

エチケツトとマナーは表裏一体だ。強いて区別すれば、エチケツトは「思いやりの行為」で、マナーは「思いやりの心」だそうなる。例えばフェアウエーでターフを削り取ったとする。このターフ(ディボット)を元の個所に戻す行為はエチケツトである。しかし「戻しゃいいんだろ」という心で戻したのではマナーに欠けるといふわけだ。「どうかもう一度根付いてくれ」とか「後続組の球が止まって困らない様に」という心で戻せば、おのずと作法が違ってくる。これがマナーである。

ベテランが初心者エチケツト違反を見とがめて、みんなの前でドナリ、初心者が赤面したとする。この場合、初心者のエチケツト違反はさておいて、このベテランのマナーはナッチョ

ランわけだ。

ある夏のゴルフ場で若い女性がカッコいいショートパンツで肌もあらわにゴルフをしていた。私はその見事なプロポーションと太ももに見とれていて。その時「マッ、見てごらん」という声でしたので振り返ると、オバサマが三人いて私と同じモノを見ていた。そして「エチケット違反よネ、アレ」「イ・ヤ・ラ・シ・イ・わねエ」と口々に言った。私にはその女性のいいえたちがエチケットに反するとは思え

長崎便り 平和へのあゝがれ

長崎支部 峰 徹

真つ青な空、新緑の森、遠くに連なる山々の峰。
風そよぎ、鳥の声、のどかに響くアンゼラスの鐘。

これからも大切にしたい穏やかで平和な日々と日常のたたずまい。

しかし70年前の日本に平和はなかった。戦争でたくさの尊い命が失われた。極め付きは8月9日、何の予告もなく長崎の街に原爆が投下された。すさまじい爆風と熱線、放射線に破壊され、焼き尽くされた街と奪われたおびただしい人の命。母は当時31歳、すでに父は亡く、12歳から1歳までの5人の子どもを抱えた母子家庭。食糧も底

なかつたが、オバサマ達には見苦しく映つたのだろう。そして私には、オバサマ達が「私達はマナーを知らない下品な女ですよ」と公表している様に見える。

この種の事を書いていくと延々と続くので紙面の都合上この辺で止めて結びにもっていきたいと思う。この小論で問題提起をさせていただいた。倫理の必要性が各方面から論じられている今日、基礎、基本について考えていきたいと思つている。

を尽き、当日は朝から浦上方面へ買い出しに出たままついに帰らなかつた。遺体も遺留品も皆無。家は壊れて住む当てもなく、子どもたちは文字通り路頭に迷い、途方に暮れた。

避難先の防空壕のある丘で夜になつてもぼうぼうと燃え盛る市街地を眺めながら、母の帰りを待つ幼い兄弟等は空腹と寂しさで声もなく、助けを求めた親戚や隣近所からも見捨てられた。

しかし捨てる神あれば拾う神あり。私たちに救いの手を差し伸べてくれたのは、お寺の住職と神父、修道者の方であった。そのお陰で終戦前後の困難な年月を飢えることなく成長し今日に至っている。

平和っていいなあ、これからもずっと平和であってほしい。切にそう思う。しかし、平和を妨げる戦いやテ



2015年(平成27年)6月18日 木曜日

長崎新聞

音と心 重ね合わせて



部員は3年の高橋佑典(左から)と、2009年以来6年ぶり2回目の出場となる。バグパイプ部は国内の代表として、2009年以來6年ぶり2回目の出場となる。

バグパイプは主にスコットランドの伝統的な楽器。羊の皮で作った袋にブローパイプから息を吹き込み、旋律を担当する1本のチャントパイプと低音部を担当する3本のドローンパイプを鳴らして演奏する。聖母の騎士バグパイプ部は国内の高校で唯一とされ、2009年以來6年ぶり2回目の出場となる。部員は3年の高橋佑典君と、全くの初心者とい

う。1年の岩永連星君、神田悠也君、廣永宙君、森良太君の計5人。びわこ総文では高橋君と顧問の熊川武俊教諭がバグパイプを、神田君がスネアドラム、森君がバスドラムを担当して、バグパイプの代表的なマーチ「スコットランド・ザ・ブレイブ」や賛美歌など4曲を披露する。平日は毎日約2時間、土曜日にも隔週で練習している。強く息を吹き込む力が必要のため、腹式呼吸の練習は欠かせないという。チャントパイプには縦笛のように穴があり、穴を指で押さえて音階を変えメロディーを奏でる。「演奏の中に自分の気持ち込み込めたい」と抱負。後を継ぐ1年生に対しては「部活紹介の時に自分の演奏を聞いて入部してくれたい」と話した。

聖母の騎士 バグパイプ部

※本紙面掲載の為、記事の配置を変更している箇所がございます。

口・犯罪が世界で頻発し、国内でも競争への道を歩もうとし始めている今日、私たちに何ができるのか戸惑いを隠せない。

でも自分なりに一つ言えることは、教皇ヨハネパウロ二世の発言「戦争は人間の仕業です。」この言葉こそ平和の原点だと思ふ。戦争は自然災害ではない。国家・民族・宗教間の反目から

きる人災である。そうならば、人間の努力で未然に防止できると教えられたのではないか。そのために平和行事や平和運動がある。反戦・反核というのが

これは決して、一部の人々の専売特許であってはならない。誰もが平和な世界実現に向けてまい進し、世界人類が互いの違いを超えて理解しあい恒久平和を誓いたい。

(第3種郵便物認可)

西日本新聞

2015年(平成27年)3月14日 土曜日

助ける、逃げない、許す

平和実現へ 三つの反省

原爆で孤児 修道士小崎さん



小崎修道士が影響を受けたマキシミアノ・コルベ神父

佐世保市の高一向級生殺害事件、過激派組織「イスラム国」の邦人殺害事件、川崎市の中学一年生殺害事件…。日々、人が殺害されるニュースに接するたび、「平和」とは何なんだろうかと立ち止まってしまふ。長崎原爆で孤児になったあるカトリック修道士の被爆体験を通して平和観を紹介したい。(三浦淳)

テーマだ。

小崎さんは原野で、足をけがして動けなかった少年か「助けてくれ、兄ちゃん、兄ちゃん」と足にしがみついていた。しかし、周囲に歩いて見捨てるしかなかった。小崎さんは今もその、「助けられなかった重み」を忘れることができないという。

中学生ぐらいの少女も助けられなかった。少女事件など最近の残酷な出来事を挙げ、言葉をつないだ。「で、許すのが一番難しいよな。そりゃ、あんな事件があったら、簡単にかっこいいこと言えないよな。人間には弱さがあるから、平和は理想にとどまって、なかなか築くのが難しいよな」

その修道士は小崎修道士(87)川本名・由川幸一。被爆から約500mの自宅にいた50年の1995年から修学旅行生らに被爆体験を語っていたが、昨年8月に体調を壊し、10月から鎌早市の養護老人ホームに入所している。

小崎さんは17歳のとき、爆心地から約2kmの三菱兵器のトンネル工場で被爆した。幸の日の三つの反省」がメイン

コルベ神父の生涯に触れ



今も毎日、祈りをささげている小崎修道士

抱く二つ目の後悔だ。三つ目は「仇なる人間を許さなかったこと。少女を置き去りにし、逃げた林には、内臓が飛び出た同僚がいた。原爆が投下される1週間くらい前に殴られ、仕返しを計画していた相手だった。小崎少年の心には「米國が何を落としたか」よりも、目の前の「敵」に対して「さまあ見」との感情が込み上げられた。「いい気味だ」とさえ思ったという。人を助ける。困難から逃げない。相手を許す。「この三見捨てるしかなかった。小崎さんの心がないと平和は来ない。小崎さんは「助けられなかった重み」を忘れることができないという。そして、川崎市の少年殺害事件など最近の残酷な出来事を挙げ、言葉をつないだ。「で、許すのが一番難しいよな。そりゃ、あんな事件があったら、簡単にかっこいいこと言えないよな。人間には弱さがあるから、平和は理想にとどまって、なかなか築くのが難しいよな」

※本紙面掲載の為、写真、文字の配置を変更している箇所がございます。



●奄美支部総会

平成27年6月14日 午後1時30分～

教会の聖堂にて、聖体賛美式を行い、マリア教会ゼローム館で支部総会を行う。配山議長の進行で、特に来年支部結成10周年の記念行事も含めて議事の検討に入る。前年度の事業報告、決算報告、監査報告、提案のとおり承認される。今年度の事業計画、予算案、その他についても審議し特別異議なく了承した。

●奄美支部役員名簿

任期:平成29年3月31日まで

会 長	近藤芳弥
副 会 長	配山尚幸、大茂卓郎 押川尚樹、安田孝春
会 計	山田 明
事 務 局	田下三佐男
会計監査	押川文隆、白石信録
顧 問	松永正男神父、内野洋平神父 久保芳一神父 田下幸次、久保聖一

●物故者

平成26年12月、東京で帰天された榊修神父さまの追悼ミサが、奄美大島でも捧げられた。



在りし日の 榊神父
2010年のフランススコ祭で



奄美の兄弟の手で納骨された



マリア教会での追悼ミサ、多くの島の信者が参列した

●聖コルベ記念ミサ

平成26年8月14日 マリア教会



奄美支部結成以来続く聖コルベ感謝のミサ



聖書朗読 安田孝春



左から、谷村神父、松永神父、内野神父



婦人会の手作り持ち寄りでの懇親会



●草刈の奉仕作業 赤尾木

平成26年7月27日 希望の星学園で草刈作業
草刈隊長、大茂卓郎の陣頭指揮でスムーズに進行した



地域の壮年団と合同での作業となりました

●久保芳一神父様叙階40年ミサ

平成27年4月14日 火 マリア教会



賑わったゼローム館での祝賀会



内野神父と聖体拝領をする



出身地マリア教会から聖職者召命を受けて派遣され、大きく生まれ変わった聖堂で叙階40年感謝のミサを捧げる……



●命日祈念ミサ

平成27年3月4日 水

故ゼローム神父さまと 故ラファエル修道士の命日ミサ



ゼローム神父12年忌
ラファエル修道士32年忌



(松永神父)



同級生ラファエル修道士とゼローム神父の遺影を祝別

在世フランシスコ会員と共同での追悼ミサ

●焼肉で盛り上がりました

平成26年8月29日 金

初代支部長 田下幸次が島に戻っていらしたので……



時間を忘れて昔の話などアレコレや
幸次が夜光貝の細工について説明(右)



一言閉会のご挨拶を大茂卓郎先生



恵みに感謝して 乾杯!

急な呼びかけでしたが、おいしい話には遠慮なく参加するものです。ビアガーデンに行く飲み代で、上等の肉をどっさり買い、おにぎりを持ち寄り、野菜もほぼほぼ買い込んで、問題のドリンクは……? 僅かですが、草刈のお礼がしたいと冷えたおビールが……



聖母の騎士同窓会奄美支部の10年を振り返る



支部総会 浦上教会



支部総会 マリア教会



支部総会 赤尾木海の家



支部総会 大笠利教会



ゼローム神父 追悼ミサ



アダムさん一周忌ミサ



アダムさん追悼ミサ



聖コルベ祈念ミサ



奄美で活躍した宣教師の追悼ミサ



ミサ後の懇親会 マリア教会



聖コルベ祈念ミサ



ミサ後の懇親会



若くして帰天したシン坊



草刈奉仕作業 希望の星学園



故ゼローム神父が設立に尽力された希望の星学園で、毎年草刈の奉仕作業を継続している。

恩師高原先生が奄美に来られた命のあるうちに教え子たちに会いたいと……一度は入院中に諦めかけたのだが三か月の準備を重ねて実現した最期の課外授業は大成功のうちに……



自らの寿命は分かっていた、でも、残して置きたい絆。時間を掛けて語りました。人としての生き方困った時ほど声を掛け合え聖母の騎士の教師だから奄美のみんなに会えた……



田下幸次の送別会



何度目の忘年会?



行事の後でダレヤメ



神父の転勤



河野くんが奄美に来た



◀刺身を盛る 青堀 巻きずしを盛る 幸一



サザエを焼く 芳弥



タコを捌く 幸次



右から、安田 誠 大茂 卓郎 池田 尚志



葬儀ミサ 浦上



セミナーの森好之さん葬儀



修道会の納骨堂

永田町の教会納骨堂





4時間分燃やすためのマキの準備



バザー 白百合の寮



90近くになってもこの身軽さ



このサザエにビールをお付けしたのだ



準備完了



良く売れた



名人 遥さんの温度管理



20キロのもち米を手作業で



初めて味わう本物の味
これなら売れる



学園の奨学基金のためにバザーに挑戦した。目標を上回る成果！



準備したステッカーを貼る



画家である池田尚志の発案
傘に絵を描いてみた。
空前の大ヒット、即売完！



この客は二本もお買い上げ
良いものは売れるのです。



浦上教会バザー会場の 主任司祭 アン神父



聖母の騎士は飲んでばかりではありません。しっかりと結果を出しています。神父も家族も巻き込んで……



バザーの計画はスムーズに成功した

◆特集「〔奄美〕シマを離れて活躍する〔奄美人〕シマンチュたち」

平和を発信する オキナワから『ハイサイ！』

カトリック那覇教区・司教ベラルド 押川 壽夫



人生の旅路、沖縄までの歩みをふりかえってみると、74歳の下り坂を両の肩にくい込む荷の重さを感じながら、ころげ落ちていくような今日此の頃……。

すり鉢山と呼ぶ)の麓にある司教館の住民となっている。

《デックマII大熊》に生まれ15歳の春、はじめて島を離れて長崎は蜷茶屋から彦山を眺めて坂道を登り、その麓にある聖母の騎士へと……司祭召命への道程の始まりだった。振り返ってみて、あれから60年の月日が流れ、今は《ウチナンチュー》となり先の大戦時の激戦地・シュガーローフ(日本軍が

OFMCConv.(コンベンツアル・聖フランシスコ修道会)の司祭として、故郷・奄美で20年、東京はOFMCConv.本部で10年、沖縄で司教として18年、多くの皆様に支えられて今日まで教会への奉仕に務めさせてもらっている。

沖繩は、今日国内外からの観光客を年間平均800万人余を迎え、その数は年をおうごとに増え続けて、県の観光課は1000万人目指して《オキナワ》を世界に売り出している。

自然に恵まれたオキナワは、日本政府による構造的差別の中で基地の負担を押し付けられて、《ヌチドゥ宝》の平和を発信して祈り続けている琉球の島々でもある。

沖繩では毎年6月23日を《沖縄慰霊の日》として、県の条例により学校も官公庁も休日。この日、沖縄は戦争の

愚かさを見つめ直し、平和を願って県民はこぞって祈りのうちに過ごしている。

那覇教区も毎年、《6・23平和巡礼》を行い、小祿教会での早朝ミサではじまる《魂魄の塔》までの16キロの道のりを途中黙想と祈りを捧げながら、沖縄戦で尊い命を奪われた大勢の人々の血に染まった道のりを踏みしめながら巡礼を続けている。第19回目を迎えた今年には380余名が参加。毎年、沖縄カトリック学園の中高生も参加して、若者も戦争体験の高齢者もともに心一つにして集い、平和への祈りと決意を新たにしていく。「過去をふりかえることは、将来に対する責任を担うことです」との教皇ヨハネ・パウロ2世の広島での平和スピーチを思い起こしながら。

また、師父フランシスコに倣い、いつも「さあ、はじめよう!」と、歩み続けている。

奄美支部結成10年おめでとうござい



また、師父フランシスコに倣い、いつも「さあ、はじめよう!」と、歩み続けている。



アフリカ・ザンビア に派遣されて

古仁屋教会主任司祭 久保 芳一



まず、ザンビア滞在中に沢山の援助を頂いた先輩、後輩の方々に心より御礼申し上げます。

又、たくさんのご迷惑や感謝の足りなかつたこと、全ての失礼を心からお詫びいたします。更に帰国後も、奄美のセミナー(同窓会)にも協力してこなかつたことをお許し下さい。

私も、震災津波後、日本管区長より手紙をもらい、一か月はテーブルの上に置いておきましたが、日本の皆様にも恩返しをすべきだと思い、一大決心をして帰国し出来るだけ頂いた恵みに感謝しつつ、地の果てで自分が神様から見せてもらったものを、日本の皆様と共に分かち合うことを願いました。しかし持ち前のガサツさは多くの誤解を招き、一度だけあれ程愛した修道会を出ようと思いました。亡くなられた坂谷神父様がよく(魔が差した)という言葉を使っていました。正にそんな心境でした。信頼している者からの裏切りという事は、こう言う事だったのかと遅ればせながら、小さな経験を

した次第で誠にお恥ずかしい私の告白です。

さて、ザンビア宣教と言っても言葉は片言、どうしたものかと思いがながら、それはそれは素晴らしいものでした。まず、日本人のカトリック宣教師としてはザンビアでは、私が最初だったでしょうか。しかし、四面楚歌360度どこを見ても外国人、まさに狼の中に羊一匹です。

その中であって、友人の宣教師より（お前は、コンベンツアルのザンビア人と宣教師会員の間に立って中立を保つように！）と勧められました。現実的には、72人の宣教師の中で大半をしめるイタリア人、その当時、ザンビア全国では500人の宣教師12500人の現地司祭がいた。他の外国籍の宣教師と、ザンビア人会員の三者の間に立って、どちらにも偏るなという事だったのでしよう。実にこの件は、25年間のザンビア滞在中、最後まで続いた状況で、良きにつけ悪しきにつけ様々な出来事に出くわしました。それだけでも又とない、私にとつての貴重な経験でした。

私は、もう日本に帰って来て4年目に入るのでしようか、帰国前にザンビアで最後に残った、コンベンツアルフランススコ会の宣教師は12人でした。帰国直前に、スロベニアの同年の会員が亡くなったので、11人になっていた

でしょう、その後は音信不通、どうなっているのか全く分かりません。宣教地で働いた日本人のシスター方も25年以上いたし、今も続行している方もおられます。長く居たから良いと言っているわけではありませんが、旅行と違い現実に長期間、現地の人々と共に居れたと言っただけでも大変な恵みです。

ただ又聞きであつたり、会議でローマに行ったとき聞いた情報とか、便利な通信網を使って色々調べ事は出来来ます。しかし、海外宣教というのは、人には今でも言いたくない苦しい経験や、十字架、更に今でも自分の血に生きている大きな喜びと恵みがあるということ、私は強調したと思えます。

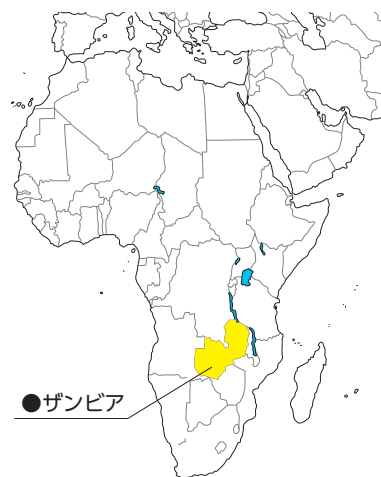
《帰国子女》と言った言葉と同じく、帰国した宣教師達は日本の社会に復帰できない状況を醸し出している事でしょう。しかし、これこそキリストの生きた十字架、日本社会への良い意味でのカンフル剤です。いろいろな知った振りをして、言い寄ってくる方々に失望する必要などありません。落ち込もうとしている日本社会を、キリストの復活で支え主の恵みを祈り求めましょう。その為に帰国した宣教師たちは、心を一つにして祈ることが出来るかと信じています。

今年4月13日に、私の司祭叙階40周年を奄美市名瀬のマリア教会で、セミ

ナリ（同窓会）の方々が祝って下さったことを、とても感謝しています。そのミサの最後に、私は「25年間、ザンビアに宣教師として派遣させてもらいましたが、ここで私は妥協したら、日本の社会の為に教会の為に、更には自分の為にもならないので、今後も妥協はしません」と宣言したので、ある方々は（またか、生意気な）と、思われたかも知れません。私は社会的に適用出来ないことを、正当化しようと思っているわけではありません。キリストもユダヤ社会とローマ帝国の間にあって、更には律法学者、ファリサイ人たちの間で、また故郷のナザレトで預言者として受け入れられなかった事を思い、出来るだけ迷惑をかけないよう努力しながらも、父なる神の御旨を求め、主の十字架と復活の喜びに与りたいという願いからです。

最早、外国に出て学ぼうとする若者が、少なくなった日本の社会にあって夢と希望、未知の（神の国）へのチャレンジが、この国の人々にも再び蘇りますように。それを願いながらの活動ですが、それにも拘らず起こる今の私の愚かさ、皆様への失礼をお許し下さい。

今、私がいる奄美の古仁屋教会の近くにも、色々な国へ行つて経験を積んだ中年の方が何人もいます。そういう方々は、他人には何も言いませんが、



現在の日本社会の中で、じつと次のテロリストのように。彼らも自分の観てきたものを、この国で分かち合い若者達に貢献しようとしているのです。ザンビアへ最初に、80年以上前に来た、イタリア人会員のマルケ管区会員 F E マツイエリ（後に司教）は、日本に行く F E コルベと同じ年にローマを出発しました。実は、F E マツイエリはポーランド人の F E コルベを良く知っていました。戦時中コルベと言う名がドイツ人に似ているので憲兵に狙われた F E コルベを（サン・マリノ）に短期間匿っていたからです。29年前、ザンビアには90人近くの、J A I C A や海外青年協力隊員がいました。日本では、一番知られていない国の一つだったからです。6ヶ月間の訓練期間を終えた後、（どこの国に行きたいか？）と尋ねられた海外青年協力隊が（分からないので何処でも良い）と答えると、じゃ、ザンビアへ」と言わ

れたケースが多かったと聞いています。(目に見えないことを信じるのが信仰だ。ヘブライ11・1-3)という聖書の言葉がありますが、私も、セミナー(同窓会)の方々と共に、今現在この点を分かち合いたいと思います。どれだけ沢山の人々が神学校、修道院で経験を積んだことでしょうか。それが今、家庭、社会、教会の中で活かされているのです。神の明らかな計画です。それが信じられますか？

先週7月12日の日曜日第15主日の第2朗読(エフェゾ1:3-14)です。悪でさえも善に変えられる神の偉大な恵みです。さあ、立ち上がりましょう。特にあなたの傍にいる方の前で、十字架をとめないままが預言者になり

ます。奄美支部結成10年おめでとうございます。

ましょう。そこが、私たちの(故郷)です。主の復活の喜びは身近にありません。預言者が故郷で受け入れられない事を、恐れないようにしましょう。ザンビアに行つて、最初イギリスから独立した時の、カウングという大統領から5代目の、初のカトリック信者マイケル・サタまで、私は見届けることが出来ました。私たちも、自分の属している(神の国)を生きている間中、希望と喜びを持って見届けましょう。

※司祭叙階40周年の祝電を、押川司教様から頂きましたので紹介いたします。

兄弟ルフィノ神父様

司祭叙階40周年おめでとうございます。《司祭になるのはやさしい、しかし、司祭であるのはむずかしい》と言われます。40年間、司祭であり続けたことは大きなお恵みです。神様とあなたを支えて祈り続けてきた教会の信者・兄弟姉妹たちの支えてによるものです。あなたの司祭職の多くの時間は、小さくされた人々のために捧げてこられたことを、誰でも知っています。特に、ザンビアでの海外宣教活動は日本のOFMConv.の誇りでもあります。これからは、司祭職の歩みも人生の旅路も下り坂……ブレーキをかけながらの下り坂です。時の流れのスピードも増してきます……体にも気を使い、いつまでも元気で活躍することをこころから祈り、神様の祝福と師父聖フランシスコの取次ぎを願いながら、みなさんと心をあわせて、4月14日のミサを沖縄で捧げてお祝いします。

カトリック那覇教区 司教 ペラルド押川壽夫

私も、(奄美人)シマンチュ

兵庫県西宮市 金井弘司



奄美支部結成10年おめでとうございます。早いうちで、私はもう古希を迎えています。

残り少ない人生となりました。

聖母の騎士では2年を過ごし、田舎に帰り地元工業高校を卒業して、電力会社、自衛隊、病院勤めなどをしてきました。途中で体調を崩し、仕事を变えながら各地を転々としてきました。その後も体調を崩した状態で田舎へ戻りましたが、40歳を目前にして弟を

頼り上阪、会社がアパートを貸してくれるところがあり、職場はスーパーの孫請けで社会保険もないところでした。そこでも体調を崩してしまい休養しました。しかしその後、ビル管理会社に就職、アイススケート場の現場を一年ほどで退職、次の職場は事務所ビルで20年務めた頃倒産しました。現場は同じ他の会社に転籍して63歳まで勤めることができました。今は週三日、短時間のアルバイトをしています。楽しみは、たまに田舎に帰省することですが、なかなか帰れない状態です。子供はなく嫁さんと二人での生活です。すぐ近くに、カトリック仁川教会がありますので、時間を見て出かけるようにしています。

さよなら、学童保育所の子どもたち

福岡県大牟田市 泊 秀信



しばらくは、さよまよっていた。自分の生きる道を探して、いろいろな仕事をした。鹿児島

島市での知恵おくれの子ども達の指導

員、名瀬市での家具販売、大阪市での段ボール会社、名瀬市役所の職員とウロウロしていたが、考え直して、大牟田市のミッションスクールの教師になり、33年間勤めて、退職。その後、学童保育所の設立に関わり、6つの学童保育所の立ち上げに協力してきた。10年間かかった。70歳になっていた。平成26年に退職。その時の思いをつづつてみた……。御座敷梅が咲き始めました。こくんぞうさんの縁銭が福を呼ぶよ。高校の



卒業式の招待状が来ました。三池初市が、お雛様が……春の足音の気配が一段と大きくなってきている。穴のムジナたちが蠢いて、冬眠の動植物が一斉に目を覚ます頃か。さよならの季節に別れを告げ、新しい環境へコンニチワの始まり。寒さと暖かさが交じり合っている時、古きを捨て、新しい革袋に今年とれたての酒を入れる決意を迫られている。スタートラインに立てるのか。その準備をとどこうりなくしたつもりでも、つもりはつもり。現実ではない。でもじっとしてはいられない。とりあえず、今出来ることはしておこう。スポーツの世界でもそうだ。

自分なりの練習のメニューを作り、自分が目指す目標に向かって、一日々を、一歩一歩進む。二歩下がっても三歩進めばいい。人生はワンツウーパンチ 汗かき、ベそかき進もうよと演歌「365歩のマーチ」でないけれど、やるしかない時期もあるものだ。今がそれだ。がむしゃらに。

10年前、大人中心の社会に、疑問を抱き、小さな二つの楔を打ち込み、子どもの味方になろうと飛び込んだ学童保育所のこの世界。その楔のひとつが「遊びの大切さを広げよう」ともう一つは、「すくすく」のお便りである。お便りも3月号で通算121号になった。よく書いたものだ。10年間も書いたものだ。と自分ながら呆れている。子ども達の生活や遊びを知らせる、伝える。子どもが直接言葉で表現できないことを、遊びから読み取り、察知し、報告する。子どものメッセージの代弁者となつて。それが継続された。

「にちは」の原稿では、本流の大河に凝縮され、大きくなったのだ。ということごとく最近わかるようになった。子ども達のことを伝えていく間に、私は、育てられていたのだ。教えていたつもりが、教えられ、育てていたつもりが育てられていたのだ。

「ドッジボール26大会」原稿は、皆様に、一番好評だった。それは『この頃気が弱ったせいなのか、人生を悟りきろうとしているのかわからないが、攻撃を仕掛けたり、勝利をする喜びよりも、自分は参加せず、応援に徹し、弱い者の味方をしたり、負けた人の心情をおもんばかることが多い。負ける方の心情や小さい体が体に似合わず、頑張っている姿や所作を楽しみにする。』

相撲では、千代の富士時代が一番面白かったな。200キロを超える高見山を小さい横綱千代の富士が腰にしがみついて、投げつけるのは、痛快だった。「巨人 大鵬 玉子焼き」の大鵬の優勝32を超えた白鳳は、初場所でも優勝し、今までの優勝記録を塗り替えた。33回になり、相撲界第1位になった。ところが、優勝を決める稀勢の里戦の取り直しの一番を「子どもの目でもわかる相撲、もっと緊張してもらいたいね」と審判部を批判した。これは、大変なことだ。「おごり」のボールをよけそくなった気がする。横綱の品格と所作が一遍に地に落ちた。「すばや

く身をかわず」というドッジボールの美学を横綱なら、やってほしかった。たくさんの経験を積み、しかも頂点に立つということは、たとえ相手が間違っていたとしても、相手をたたえる余裕があってもいい。それが横綱の品格というものだ。相撲道は、聖なる道である。日本の文化は、聖と美と思いやりが混濁する。日本は、西洋と違って、絶対主義ではない。相対主義が多い。私がいて、相手が存在するのでなく、相手のおかげで私の価値存在は決まる。柔道、華道、茶道しかり。多くの人が判官びいきであり「痩せガエル負けるな一茶ここにあり」の句が大事にされている心である」と。

もう一つの楔は、遊ぶということ。社会環境がずいぶん変革したけれど、私の子どものころは、よく遊んだものだ。道路で、集団で、仲間と、上級生と、テレビなし、パソコンなし、テレビゲームなし、携帯なし、だっただけど楽しい思い出がいっぱい詰まった小学校時代であったな。戦うこと、負けないこと、泣かないこと、けんかのしどころ、弱い者への心遣い、食べる事、交渉の仕方、小遣いの稼ぎ方、不正は見逃さないこと、正義は必ず勝つこと、などなど今思うと、人生そのものを遊びで習得していたのだ。だから、がむしゃらするべき時には、がんばれたのだ。遊びは、そういう人生の

過ぎし方を培う。遊びを軽んじてはいけない。大事にしなければいけない。あまりにも勉強、勉強と、いいすぎるのも問題だ。

「ゆく川の流ればたえずして、しかももとの水にあらず、よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、とどまりたるためしなし」と方丈記は語る。二つの楔が、単なる「よどみに浮かぶうたかた」なら、「浪速のことは、夢の又夢」にすぎないが、それは、無に等しい。空しい。しかし、瑞樹ちゃんは、私から消えてはいない。いつも共にいて、語りかけている。「すすく」も残っている。その一石が、波紋のように、広がる。何かが残るはずだ。私のなかの瑞樹ちゃんのように。Good By (あなたの傍に良いことが寄り添いますように)、さらば (左様な事情ならば) シャローン (あなたに平和がありますように) もう一度 Good By さらば、シャローンと祈りながら、旅は、また、始まる。「月日は百代の過客にして、行きかう年も又旅人なり……予もいずれの年よりか、片雲の風に誘われて、漂泊のおもいやまず。海浜にさすらう」(奥の細道) 老兵もまたあらたな道も求めて、さすらうか。さすらい虫が又うごめいてきた。

奄美支部結成10年おめでとうござい

英国での挑戦

英国在住 勳倫太郎

まず始めに、奄美支部結成の10周年をお迎えられたとのこと、ご祝福申し上げます。

同窓会の皆様、お久しぶりです。日本を離れてから、もう14年過ぎました。

去年は、新しい家族のメンバーが、加わり家の中が、騒がしくなりました。長男の名前は、ドイツ人、日本人、英国人でも、簡単に呼び易い様に、トム (TOM) と決めました。そして日本語の名前は、嫁さんが唯一問題なく発音できたという理由で、勇 (いさむ) と決めました。英国では、よくファーストネーム (first name)、セカンドネーム (second name) 又はクリスチャンネーム (Christian name) と二つの名を持つのも普通なので、二つの名をあげることにしました。

長男が生まれてすぐに、一週間の育児休暇と2週間の休暇を取り、家事やオムツを替えたりと、赤ちゃんと一緒に過ごす事ができました。英国は、昨年に法律改正により、母親と父親が育児休暇を分けることができるようになりました。父親も、積極的に育児に関わる事が、できる様になりました。英

国での、法令上の出産/育児休暇は、52週間と定められています。その期間の始めの6週間は、給料の一週間分の9割を週に、支払われることになっており、その後の33週間は、週に、£139.58もしくは、給料の一週間分の9割(どちらか低い方)が、支払われることになっています。

職場の方々には、「初めての赤ちゃんは、とても大変だから、お前が、家にいる3週間の間は、嫁さんが育児に集中出来るように、お前が、家事を全てをしろ！」っと上司から言われ職場から送り出されました。(英国における作業療法士の割合は、90%以上は女性です。)

英国では、母親と赤ちゃんは、赤ちゃんが健康である限り、産まれたその次の日には、退院させられます。退院後は、助産師さんが、三日間家庭訪問で赤ちゃんとお母さんの健康をチェックし、その後は、巡回保健員の方が、赤ちゃんの体重や身長を測定し、色々アドバイスをしてくださります。

最近、やっと長男が、家の中を這い這い始めて、もう目を離すが出来ません。自分の親は、どうやって4人の子供を育てたのだろう??自分たちは、赤ちゃん一人にこんなに苦労しているのに、とよく考えます。でも、毎日が違う、たまに子供の成長を感じる

時には、とても喜ばしくてたまりません。

去年の12月から、ランディドノー (Llandudno) の小さな地域病院 (Community Hospital) に異動になり、今年の8月まで、そのリハビリテーションのチームの一員として働いています。

地域病院には、大きな総合病院で、退院出来ない年配の痴呆症の患者さんたちや、脳卒中や骨折の後のリハビリテーションのために送られてくる患者さんたちが、殆どです。その為、どの患者さんたちも、複雑なケースで、少し大変です。特にこの地域病院は、2つの大きな総合病院の間にあり、それに加え、この地域は、高齢者の割合が、



◆特別寄稿 6・23《平和巡礼》メッセージ2015

終戦70周年・沖縄

カトリック那覇教区
司教ベラルド 押川 壽夫

終戦70周年を迎えた今年の沖縄慰霊の日。愚かな戦争により全てを失った沖縄は、きょう、改めて《命トウ宝》を心に秘めて、世界に平和の尊さを訴えています。

きょう、この平和巡礼にご参加の皆さんは、誰よりも平和のために働く世界中の人々と心と祈りを一つにする方々です。今日、世界の多くの国々、その為政者たちは平和の名をかりて戦争の準備に熱心です。皆さん、真の平和を建設するのは、民意に心と耳を傾けない政府ではなく、皆さんの真摯な平和活動です。沖縄を例にとるなら、それが明らかです。戦争への準備とも言える基地建設は、全ての命の軽視、自然の破壊です。

Papa Francescoは、先週、回勅「Laudato Si」を発表しました。《環境問題》に関する回勅。世界中のメディアが取り上げています。「わたしたちの後に続く人々、また今成長しつつある子供たちのために、わたしたちは一体どのような世界を残していきたいのでしょうか」と問いかけています。沖縄戦を体験した先輩の皆さん、皆



さんの声が無視され権力に抑圧されている現状、繰り返される沖縄差別の無神経きわまりない強権的な日本政府に対して、皆さんとともに沖縄は声を揚げて行動しています。沖縄を世界に発信できる皆さんは、平和の尊さを誰よりも体験しています。これからも、若い世代に戦争の愚かさ・平和の尊さを語り続けてください。

カトリック沖縄学園の皆さん、人間の愚かな仕業である戦争を体験してない若者の皆さん、沖縄が歩んできた歴史をふりかえり、この地・沖縄が先

の戦いで耐え難い苦しみと多くの人々の尊い命を奪った上で、《捨て石》同然に踏みじられ、それが今日に至っている沖縄差別の現状を自分たちの目で確かめてください。この不条理を、真剣に学び、真の平和の意味を心に刻み、平和の使者となつてほしいと思います。この平和巡礼は、わたしたちの平和への祈りの表現であり、沖縄から

の若い皆さんの平和発信でもあります。

平和に対する無関心、不正義、差別を自覚しない、多くの日本国民の実態、沖縄の永年にわたる痛みに対して無感覚な人々は、容易に戦争に向かう流れを阻止することができません。わたしたちは、今、置かれている沖縄の現実をしっかりと受け止め、争いに備える社会の流れには勇気をもって、声を大にして《No》と応えましょう。

何よりも命を大切にし、人権が尊重され、沖縄が発信し続ける《ヌチドゥ宝》を生きる世界が実現されるために、今こそ声をあげてともに歩みましょう。

平和の名をかりて、憲法9条の改憲をはかり、戦争の準備を整えるように人びとを惑わす、混迷する政治の動きに、無関心であってはなりません。わたしたちは、真の平和実現のために何ができるかを正しい判断をもって常に考え、勇気をもって行動しなければなら

りません。

戦後70年を迎えて、カトリック日本司教団は平和を願うすべての方々へ向けて、メッセージ「《平和を実現する人は幸い》今こそ武力によらない平和を」を発表しました。その中で、アジアの国々との和解と連帯を呼びかけ、近隣諸国と共有できる正しい歴史認識を基に「過去を振り返ることは、将来に対する責任を担うことです」との教皇ヨハネ・パウロ2世の広島での《平和アツピール》を思い起こしています。平和を実現するために、暴力と憎しみにかえて、信頼と思いを持つようにと、教皇の平和アツピールを再び強く訴えて、平和を築いていくよう呼びかけています。

きょうは、6・23《沖縄慰霊の日》。沖縄全県民が祈りの中にいます。沖縄は未だ終戦を実感しない、心の痛みの中の切なる祈りです。沖縄に対する政府と無感覚な人々の「構造的差別」に基づく過重な基地負担にたいして、「No」という叫びが日本全土へ、さらには世界にうねりとなって発信されるよう祈ります。平和を実現する人は幸いとのキリストの招きに応えるためにも。今日、あらためて、わたしたち一人ひとりが《平和の担い手》なるよう、沖縄の心を、基地負担や平和に無関心な人々へ発信しつづけます。

第14回 学園劇定期公演

**3年ぶりに
開催します!**

今年度(平成27年)は3年ぶりに学園劇を実施する予定です。演目は信徒発見150周年を記念して『津和野—乙女峠殉教物語』です。この演劇は今から13年前にも一度公演いたしましたが、今回は新しい演出家をお迎えしての初公演となりますので、また違った演出が楽しめるかと思えます。ご期待とともにご支援のほど、よろしく願いいたします。なお、日時や会場等については次のとおりです。

【演題】津和野—乙女峠殉教物語 信徒発見150周年記念

原作 崎濱宏美 神父

公演日時：平成27年11月18日 水

午後5時30分 開場／午後6時30分 開演

公演会場：チトセピアホール

長崎市千歳町5-1 TEL.095-842-2700

チケット代：全席指定 1,000円

高校生以下 500円、10名以上団体は2割引



<問合せ先> 聖母の騎士高等学校 長崎市本河内 2-2-2 TEL.095-823-4523 / FAX.095-823-4759

生徒募集

母校で、ご子息を学ばせてみませんか。

■一般生

- ★1学年1クラスの少人数教育。
- ★学力が高い生徒のために進学コースを設置。実力をアップして上級学校への進学を目指します。
- 1年生:「センター試験対策コース」
- 2・3年生:「国公立大学進学コース」

■神学生(聖コルベ志願院 ☎095-828-0541)

- ★コンベンツアル聖フランシスコ会の神父を目指します。祈りに始まり祈りに終わる生活で信仰を深め、キリスト教指導者になるための知識・教養を身につけます。
- ★高校卒業後は一般の大学で神学以外の専門知識を身につけた後、上智大学神学部へ編入して司祭を目指します。このため高い教養を身につけることが要求されます。
- ★神学生の授業料・生活費は修道会より支給されます。

■校内特待生制度

- ★成績優秀な生徒には特待生制度により奨励金を支給しています。

オープンスクールを開催します。
10月10日 土曜日
お気軽にご来校ください。

※学校見学会は以下の日程で行います。
10月31日、11月7日、11月21日、12月5日
(全て土曜日です)

寮完備

県内外を問わず広く一般生徒のために寮を完備しています。規則正しい生活の中で、秩序と和を学びます。毎日の食事は、専門の業者による栄養管理のもとで提供されます。

聖母の騎士高等学校

長崎市本河内2-2-2 ☎095-823-4523

ホームページ <http://www.seibonokishi-2008.jp/>



●奄美大島からやって来る!

昨年の会報でもお伝えしたように、奄美大島から10名のOBとその身内3名の方が、総会、そして五島巡礼に参加します。巡礼には長崎本部からも赤本会長、大石さん、窄口さんが参加します。個人的には、卒業以来会ってない同級生も参加するという事で、心待ちにしています。これを機会に全国に散らばっている他の同級生にも参加を呼びかけてみようとも思っています。皆さんも計画してみてくださいは如何でしょうか。きつと、楽しいはずですよ。以下は、参加される方々です。

- (一) は卒業年度です。
- 安田 誠(S.41) 大茂 卓郎(S.41)
- 久保 聖一(S.44) 安田 克洋(S.44)
- 田下 幸次(S.44) 山田 博信(S.45)
- 田下三佐男(S.46) 近藤 芳弥(S.50)
- 山田 明(S.50) 配山 尚幸(S.55)

●来年は20号!

編集集中、過去の会報を再読していただいていたのですが、英彦の泉は今回が19号……。という事は、来年は何と20号!早いものです。

これは、「特集号にしなければ...。では、さて何を?」と、これか

ら知恵を絞ってみます。どなたか良いアイデアをお持ちの人、是非ご連絡をお願いします。

●同窓会奨学生

今年は1名の採用です。採用の基準は、「成績は重視せず、家庭の経済状況を第一とし、特に、他の生徒の模範となる者。」です。月額5千円を1年間支給します。

●学園ホームページと同窓会Facebook

学園行事などの情報を、学園ホームページとFacebookで発信しています。特に、Facebookは、同窓生の交流の場として活用していますので、一度見ていただき、身近な出来事やイベントの紹介など、気楽に投稿していただければと思います。

●会費納入のご協力を

年々会費納入額が低下しています。このままでは、おそらく3~4年後には同窓会活動は会報発行だけに限定されると思います。同窓会の活動目的は、会報発行だけのためにあるのではなく、何よりも、母校と生徒たちの活動に寄与することだと思えます。奨学金、クラブ活動、その他。学校の発展や生徒のために寄与出来ない同窓会組

織に何か存在価値があるのでしょか。昨年、800部ほどの会報を送付し、会費納入者はその10分の1ほどです。何卒、ご協力をお願いします。

●三便り

※このコーナーは、皆さんが振り込み用紙に書いて下さったお便りを紹介しています。これからも大いにご利用願います。(敬称略)

▼会長在任中は会員の皆様に支えられ、無事、任期を終えることが出来ました。心よりお礼申し上げます。新会長も立派な方です。お互いに協力し、支えていきましょう。感謝。

長崎市 木場田友次

▼74歳。60年以上前に7年間お世話になりました。聖母の騎士に心より感謝しています。忘れずに信仰の恵と教育、未だに鎌倉カトリック教会で毎日曜、聖歌隊と葬儀の侍者として力を発揮しています。 鎌倉市 平松壽護

▼卒業後もお世話になっているようで、感謝申し上げます。

松浦市 深水晴紀(母)

▼就職して頑張っています。

長崎市 境 航平

▼囲碁部の小岱証君が、全国高校文化祭・茨城大会に長崎県代表として出場

したそうですね。心からお喜び申し上げます。出場のことを事前に知っていたなら応援に駆けつけたのに、残念です。今後のご活躍を祈ります。

鹿嶋市 田辺久義

▼いつもありがとうございます。年に一度の英彦の泉、楽しみにし、後輩の活躍ぶりはずいいものを感じます。さらなる活躍を期待しています。

西彼時津町 宮崎謙一郎

▼いつもありがとうございます。遅くなって申し訳ありません。去年と今年の会費を送ります。 堺市 竹口良巳

▼まだ現役、元気です。長崎が遠い! 五島市 本村義則

▼永井先生共訳の「スミス神父」ありがとうございました。

横浜市 松本茂男

▼お仕事、ご苦労様です。ヨロシクオネガイシマス。

長崎市 赤本喜代次

▼英彦の泉ありがとうございました。

平塚市 宮川 崇

▼聖母マリアの恵の内で同窓会の発展をお祈りしています。

鹿嶋市 平松 弘

▼「英彦の泉」に楽しい記事をご寄稿下さる同窓生の方々、編集頂いている熊川先生、有り難うございます。ま

た、学園便りで学生達の活躍を知り、「がんばれ！」と励ましたい気持ちになりました。
寝屋川市 萩原儀一

いつも有り難うございます。

池田市 磯辺浪男

▼高総体報告の弓道の写真を見て応援したくなりました。今、家内は弓道にはまっています、毎日昼も夜も出かけています。私は、しゅの道に励むばかりです。
桶川市 斉藤 優

▼「英彦の泉」、今年もありがとうございました。学園便りで、後輩達が頑張っていることに接し、嬉しく思います。各地区からのお便りも懐かしく拝読しました。特に、奄美地区の皆さんのご活躍には、毎回、敬服しています。
富里市 岡 信夫

▼いつもお世話をいただいております。
諫早市 山内春治

▼役員の皆様、ご苦労様です。スミス神父の本、有り難うございました。
福岡市 白浜雪義

▼来年、奄美支部が同窓会に参加されるそうで楽しみです。また、同窓会のフェイスブックで母校の様子などお知らせ頂き、よく見えています。

佐賀市 塚原裕一

27年度 総会・懇親会

お知らせ

9月19日(土)開催

会場 コルベ記念館ホール

御ミサ 16時00分～
総会 17時00分～
懇親会 18時00分～

会費 3,000円
(学生及び20歳以下は1,000円)

参加お申し込みをされる方は、別紙申込用紙を FAX が郵送していただくか、下記メールアドレス(熊川)に御連絡下さい。

FAX: 095-823-4759

Eメール(熊川): toshi_dominic_kumagawa@yahoo.co.jp



編集後記

今年度、新会長の赤本さんを迎え、新体制で……、と言いたいところですが、やっぱり昨年とほぼ同じ顔ぶれ。そんな中、昨年、本人も知らない間に理事になっていた今年25歳の「滝元敦君」に加え、今年、同級生の「川村隆公君」が新しく理事に加わってくれました。これで本部の平均年齢がグッと下がり、まさにグッド・ニュースとなりました。

いつもの、これまでは、小島先生も私も若手でしたからね。ところで、来年、この二人は、「赤いちやんちゃん」の年になります。という事は、あと一年半で定年退職！早

今年度、学園劇があります。演技指導をされていた方の急逝により暫く中断されていましたが、ようやく新しく指導して下さる方が見つかリ漸く再開です！「学園劇は、本校生徒にとっては甲子園。」と校長先生がおっしゃる通り、これまで参加した生徒たちを顧みると、確実に「変わる」ことを実感してきました。今回もどんな成長を見せてくれるのでしょうか……。楽しみです。

転載した新聞の通り、7月29日(水)に滋賀県守山市で行われる、「全国高等学校総合文化祭2015 滋賀びわこ総文」の一器

楽・管弦楽部門」に、長崎県代表としてバグパイプ部が出演します。同窓会からも援助金を頂きました。ありがとうございます。また、7月21日(火)の朝日新聞全国版でも、全国で唯一のバグパイプ部という事で、特徴的なクラブの一つとして紹介されることになっています。会報が届くころにはすべて終わっています。が、生徒たちには、とにかくベストを尽くし頑張らせたいと思います。結果は、学校ホームページか同窓会の Facebook でご覧下さい。



原稿募集



近況報告を兼ねて「英彦の泉」に投稿してみませんか。同窓生ならどなたでも構いません。思い出、雑感等々何でも結構です。是非、ご協力下さい。テーマは自由、出来れば800文字程度にまとめて熊川のメールアドレス、または、聖母の騎士学園へ送付してください。提出期限は毎年7月20日です。よろしくお願ひします。

熊川のメールアドレス以下です。
toshi_dominic_kumagawa@yahoo.co.jp